



赤江小学校だより

# ちまちだ

赤江小学校は、開校 150 周年  
(明治 6 年 5 月 23 日開校)

令和 6 年 1 月 31 日

## ひとみ輝き 笑顔と笑い声がこだまする赤江小学校

すすんで  
あいさつする子  
になろう

あきらめずに  
がんばる子  
になろう

自分もあいても  
大切に  
する子  
になろう

すすんで **あ** いさつする子  
あきらめずに **か** んばる子  
 **え** がおで  
安心 学校生活が送れるように  
自分も相手も大切に  
する子

令和 6 年は、元日に能登半島が大きな地震に見舞われる痛ましい年明けとなりました。被災された皆様へお見舞い申し上げ、お亡くなりになった方のご冥福をお祈りするとともに、一日も早い復興を願っております。これを機会に、本校でも避難訓練など災害に対応する教育をしっかりと行っていきたいと思ひます。

令和 5 年度も残すところ 3 学期のみとなりました。3 学期は、授業日が約 50 日の短い学期です。その中で、学年のまとめと進級、進学準備を進めていきたいと思ひます。

### みんなのトイレが明るくきれいになりました

昨年度末の工事で洋式トイレが 14 基増設されるなどトイレの改修が進んでいましたが、このたび中央トイレ (1, 2 階) と西トイレ (1~3 階) の照明が LED に交換され、換気扇も設置されました。どのトイレも明るく快適になり、子どもたちも職員もこれまでより使いやすくなったと喜んでいます。

トイレの改修は、赤江教育後援会、赤江地区自治会連絡協議会、赤江小学校 PTA で令和 3 年度から安来市に要望してきたものです。皆様のお陰でよくなりました。感謝申し上げます。

始業式では、トイレが明るくきれいになったことを全校で紹介するとともに、感謝の気持ちをもって一人一人が大切に使うよう呼びかけました。



西トイレ (女子)



中央トイレ (男子)



中央トイレ (女子)



避難訓練など命にかかわる学習を大切にしようと話しました。転校してきた友達の紹介もしました。

### 雪への対応ありがとうございました

1月25日(木)には、積雪により引き渡しによる下校措置をとらせていただきました。今回は引き渡しに時間がかかり、渋滞も発生して保護者の皆様のみならず市道を利用する皆様にもご迷惑をおかけしました。今回の課題をもとに改善案を検討しており、次回はこのような事態にならぬようにしたいと考えています。引き続き保護者の皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



校庭にたっぷり雪が積もり、低学年から高学年まで大喜びでした。雪合戦もでき、大きい雪だるまもできました。

### 学習の様子から



(左) 島根県障害者スポーツ協会の方にお世話になって3年生がボッチャなどの体験をしました。  
(右) 開校 150 周年記念事業として、4年生がフェンシング教室を行いました。珍しい体験ができて大喜びでした。フェンシング協会の皆様ありがとうございました。



1月18日に児童会の計画によるなかよし班遊びをしました。1～6年生がグループに分かれて、それぞれのグループの6年生が考えた遊びをしました。6年生が「Kahoot! (カフート)」というアプリで作成したクラウド上のクイズを、一人一人がPCで答えるという“今どき”の遊びもありました

### 6年生を送る会に向かって

2月下旬に6年生を送る会が計画されています。中心になって担当するのは5年生で、連日、準備を進めています。1月23日(火)には代表委員会を開いて、全学級に6年生を送る会について説明し全校でよい会にしていきましょうと呼びかけました。これから各学級でも準備が進んでいくことと思います。エネルギーあふれる5年生ですので、きっと素晴らしい6年生を送る会にしてくれることと期待しています。



### 開校 150 年記念コラム (第16回)

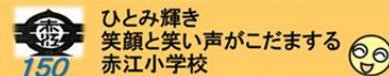
今回の記念コラムは、「足立智美先生による寄稿」と「熱意ある教育研究の記録」です。

足立智美先生は、平成 28 年度～29 年度の本校の校長先生で、本校の卒業生でもあります。たくさんの思いをお持ちの中、限られた字数の中で書いていただきました。足立智美先生ありがとうございました。次回は、本校の前校長 客野 智先生にお願いしています。

## 足立 智美 元校長先生に 寄せていただいた言葉

私は母校で迎えた教職最後の2年間、50年続く児童交流を身をもって体験させていただきました。バスから降りてくる白鳥小学校を迎える全校児童の興奮と瞳の輝き、夜のイベントで弾ける笑顔、涙で見送る純真な姿…参加した誰もの生涯の思い出でしょう。PTAと地域が一体となって重ねてこられたスケールの大きなこの活動は、「進取の心」と「相互扶助」の赤江の風土が生み育てたものであると敬服しております。

過日、開校百年事業の「赤江教育百年誌」の卒業生欄に拙い自分の作文を見つけ赤面しました。と同時に、いかに歳を重ねても、赤江を離れ遠隔の地にあってもふるさと赤江への思慕と感謝の念は終生変わらないとの思いを深めました。



## 熱意ある教育研究の記録

1. 赤江教育百年誌には、「大正時代の赤江教育」の項には、大正当時、今津小学校にお勤めだった永井先生の思い出が載せられていました。

### 「思い出の今津校」(永井 婉)

今津小学校は平屋建て、6教室の小さな校舎でした。先生は30歳までの若い人が多く、文字通り子どもとともに学び、遊んだものでした。

自由教育と呼ばれる風潮が押し寄せて、一人一人の個性を見つけ、その良さを見出し、伸ばしていこうという考えでした。奈良女高師附属校で「伸びていく教育」が叫ばれました。学級経営に悩んでいた私は、奈良まで出かけ、一週間研究させてもらいました。

その頃、今津は提灯学校の異名をとったほど研究会が夜遅くまで続きました。教師が一丸となって子どもの教育に当たった時、いつしか子どもたちも教師の気持ちを汲んでくれたように思います。

2. 先端の機器を活用した教育に取り組んでいた記述もありました。赤江小では、昭和27年から昭和30年まで「放送教育」の研究に取り組んでいます。

### 「先駆けて取り組んだ放送教育の研究」

今でこそ視聴覚教育といえば、大体内容が理解できるが、全く聞いたことがない教育用語であった。・・・教育の中に放送を取り入れることは、全く考えてもみないことだったから、全く暗中模索の研究であった。幸いNHK松江支局の応援を得て研究を進めた。・・・学校、家庭一体となって放送教育に取り組んだことは画期的なことであった。

「他校に放送設備が設置されるには、もう10年を待たねばならなかった。」とありますので、時代に先駆けた研究にエネルギーが向かってきたことが伝わってきます。

この後、視聴覚機器はテレビ、OHP、テープ、CD、パソコン、インターネット・・・と、多種多様な機器が取り入れられてきました。現在、Wi-Fi環境のもと子どもたち一人一人がタブレットPCを手にして学習していることはご存知の通りで、私たちも研究をしながら取り組みを進めているところです。

これらは、教育研究の歴史のほんの一端ですが、先輩の先生たちも、悩みながらも熱心に教育研究に取り組んでいた様子がかがえます。私たちも子どもたちのために研究に取り組んでいきたいという思いを改めて強くもちました。



学校だより「ちまちだ」をカラーで～ホームページに載せています～